

（1）共働のきっかけ・必要性

- 福岡市は全国的に見ても街中に豊かな緑地を守り残してきた自治体ですが、緑地の中には管理放棄によるヤブ化、不法投棄などが見られる場所もあります。
- これらの緑地は十分な管理があれば、市民の憩いの場や間伐材の利用など、身近な自然を享受できる場になります。
- 管理者である福岡市と保全・活用のノウハウを持つ NPO 法人グリーンシティ福岡の共働により、現在の福岡市にあった里山的な緑地の保全・活用を試行、展開しています。



せっかく身近に森があるのにもったいない！

（2）事業目的

特別緑地保全地区等をフィールドに、里山的な利活用の楽しさや技術を伝えること、近隣住民の合意を形成していくこと、それを支援する制度のあり方を検討することで、街中の緑地を現代の里山として再生することを目的としています。

（3）事業目標と成果

3年目は事業目標として4つの成果指標を立てました。

継続して森の保全作業を行っている緑地に加え、新規の緑地での体験イベント等を実施した結果、南公園や浄水緑地において自主的な活動団体が3団体、結成されました。またその他の地域でも森の保全活動に取り組みたいと考える町内会が2箇所生まれました。並行して緑地保全活用ガイドラインの技術編として森のボランティア活動を始めたい層向けマニュアルを作成し配布。既存活動団体の支援と併せて、市内の緑地の保全・活用を進めることができました。

成果指標	実施前	目標	実績
福岡市内の特別緑地保全地区等で活動する団体数	約10団体	+2団体	+3団体
(同上)での市民が参加可能なイベント等の回数	約40回	+10回	+10回
活動を支援した保全団体数	0団体	5団体	5団体
緑地保全活用ガイドライン「技術編」の作成と配布	-	300部	400部



初めてでしたが、みるみる森が気持ちよくなっていきました。



日頃、散歩する森にお返しができるようでうれしい。

大平寺緑地で枝の整理作業。企業ボラの参加も。

南公園で土壌の改善作業&切った枝でクラフト。

(4) 事業内容

1. 活用プログラムの開発と試行事業

3年目は下記の4つの緑地で体験イベントを計10回行い、223人が参加しました。

南公園 __ 「植物園里山ボランティア」として、森の手入れや土壌改善、間伐材のクラフトなど。

浄水特別緑地保全地区 __ 市民団体リ・リーフと連携した、枯れ木や枯れ枝の片付け、土留めづくり。

大平寺特別緑地保全地区 __ 地元町内会や企業ボランティアと、樹木観察及び、枝の整理作業。

平和南特別緑地保全地区 __ 地元町内会と、枯木の片付けとカントリーヘッジ、小枝のイーゼルづくり。



やってみたら、楽しかった！



やりがいを感じる。

年齢に関係なくできる作業がある。切った木を活用してものづくり。枯木を環境保全資材として活用。

2. 活用ガイドラインの普及事業

1、2年目で作成した活用ガイドライン「導入編」の続編として「技術編」を制作しました。活動をはじめた団体やこれから始めようとする個人に向けて、活動や運営の参考書的な内容を取りまとめています。

3. 活動団体の支援事業

○市内の緑地等で活動する既存の活動団体の課題解決や運営支援を計5回実施しました。



配布先を募集しています。関心ある方、ご連絡を！



造園業者として緑を守る活動に協力できてうれしい。



切った木で「森のえんぴつ」を作った楽しかった。

造園のプロによる枯れ木処理作業。

ボラ募集の広報協力。

地元団体の体験イベントに講師を派遣。

(5) NPOと市の役割分担

